

B O O K

『病原真菌と真菌症 改訂3版』

帝京大学名誉教授 山口英世 著

病原真菌のゲノミックスと病原因子に対する免疫機構の解明、そして新しい抗真菌薬をめぐるトピックスなど、この分野の情報は急速に、かつ広範囲に爆発的に増加している。この進歩に対応するために、多数の共同執筆者による、いくつかのテキストやマニュアルが相次いで発刊されている。もはやこの分野でも一人の著者が、テキストを執筆することは不可能に近いと思われる。

しかし、その常識を破るのが、山口英世先生による、「病原真菌と真菌症 改訂3版」である。本書の初版のコンセプトである「溢れんばかりの知見や情報を取捨選択、整理統合して医真菌学を新たに体系化し、初めて医真菌学に触れる医学部の学生にも理解しやすい平易な表現で、また、この分野で経験のある検査・診療スタッフの方々にも参考になるレベルを保持するテキスト」は、この第3版にも見事に引き継がれている。このようなコンセプトのテキストを編集する作業は極めて困難であり、分担執筆では、どちらかの読者にとって満足のいかないものになってしまいがちである。長年にわたり、この学問分野で研究と教育に情熱を燃やされてきた山口先生以外には、このような名著を書き上げることはできないであろう。

学生の皆様には、ぜひ一度は通読していただきたい。時間がとれない検査・診療スタッフは、必要に応じて、その都度、必要とする部分で最新知識の確認をしていただきたい。医真菌学の第一人者である山口先生が基礎的概念、専門用語を懇切丁寧に解説し、カラーの写真や図表が豊富なこのテキストは、そのような使い方ができる構成になっている。すなわち本書の構成は、I プロローグ A. 真菌と人間生活とのかかわり、その医学的重要性、B. 真菌学・医真菌学の歴史と発展、II 病原真菌の生物学、III 真菌症の疫学と感染機序、IV 真菌症の診断法、V 真菌症の化学療法薬（抗真菌薬）、VI 日和見感染型深在性真菌症、VII 地域流行型真菌症（輸入真菌症）、VIII 主な表在性真菌症、IX 主な深部皮膚真菌症、X エピローグ（これからの課題と展望）からなっている。

これらの全ての章について解説をする紙面の余裕はないが、私の専門である臨床検査医学の立場から、検査室内診断法と抗真菌薬に多くの紙面を割いていただいていることはありがたい。例えばカンジダ症の血清診断法では5つの検査法が紹介されている。私ども臨床検査専門医の仲間内では感度と特異度の面から診断学的価値がもはや乏しいと決め付けている検査も、その歴史的意義と限界が述べられており、読者に最終的な判断を委ねている著者の高い見識と温厚な人柄が伝わってくる文章である。薬剤情報がup-to-dateに更新されていることは特に本書の価値を高いものにしてている。

真菌症の脅威はますます深刻なものになっているが、医真菌学を専門にする本物のスタッフが極端に少ない日本にとってまさに時宜を得た名著である。

日本大学臨床検査医学講座

熊坂 一成

発行：株式会社 南山堂 発行日：2005.10.20 住所：〒113-0034 東京都文京区湯島4丁目1-11
電話：03-5689-7855（営業）・7850（編集） 定価：本体4,900 + 税